表紙解説

浅海井廣浦にある鯨墓二基は、国道二一七号線の道路側にある石碑です。近くに漁業保安林の石碑も建てられています。旧上浦町の指定文化財です。

この鯨墓を視察した時、上浦一帯でも網や銛による鯨猟（捕鯨）が行われていたのではと思っていましたが、残念な事に今の所、鯨猟を実施したという古文書を見つけておりません。

もしご存じの方がありましたら編集部までお知らせ下さい。

上浦町史によりますと、二つの石碑は当時の網組、曽根角藏さんの名前と年月日（明治二十一年子旧正月十六日・明治四十年十二月六日）、南無阿弥陀佛鯨魚墓とが記されています。

明治の二十年代と四十年代に、この附近の磯浜に鯨が紛れ込んだようです。

鯨が海の上を雄大に泳いでいる姿をまた見たいものです。

廣浦の鯨の墓

編集後記

会誌二二九号をお届けします。

今回は研究発表として宇目から豊後大野、日向地方の山々を活動の場とした『木地師』の生活の一端を載せています。木地師は滋賀県筒井を本拠地として、日本国中の八〇〇メートル以上の山々を自由に闊歩し、轆轤（ろくろ）等を使って生活用品を作っていた山の漂泊民です。民俗学の大家、柳田国男氏が研究しています。民衆史の遺産巻一（大和書房）に紹介されています。

また、会員発表報告として佐伯一族の末裔、緒方洪庵の様子も乗せています。外に提言、随想などもありました。

今回の研修旅行の報告は、国東の六郷満山を取り上げました。

「もっと、地域の威厳や情報があるといいがなあ」という意見もありました。会員の方からの投稿、ご意見も少しずつではありますが寄せられています。